ウタイと異国の味覚・記事の要約

Frankfurter Rundschau、1995 年 11 月 8 日

要約

記事は、オラニエンブルガー通りの地下レストラン「カマラ」の料理長ウタイを紹介している。彼はプレンツラウアー・ベルクのマオタイで働き始め、その料理はどれもおいしいと評される。マオタイは大成功を収め、店主ノルベルト・フランケンシュタイン氏は最初の支店カマラを開き、ウタイを料理長に据えた。

筆者は、ドイツの外国人法が外国の「専門料理人」の就労を認める一方で、滞在許可と就労許可を 3 年に限っていることを説明する。その後料理人は帰国しなければならず、店主はタイで新しい料理人を探さなければならない。当局は、外国人料理人が永住権を得るほど「定着」することを望んでいないと説明している。

記事は、この「ローテーション原則」がドイツ国内の外国人の数を少しも減らさず、ただ質の高いレストランの継続性を損なっていると指摘する。フランケンシュタイン氏は、失業者と外国人を対立させる扇動だと批判し、ドイツがこれほど事業に敵対的だとは思わなかったと語っている。

本資料は全訳ではなく要約です。記事の全文はドイツ語・英語・スペイン語でご覧いただけます。